

創刊特別寄稿

新生人間科学部心理学科に向けて

鈴木江津子



現職：上智大学総合人間科学部心理学科 特別研究員

2000年 文学部心理学科入学，2004年 同卒業，2009年 専修大学大学院文学研究科心理学専攻博士課程修了

出身ゼミ：(学部・修士課程・博士課程) 岡田隆先生，(博士課程) 山上精次先生

人間科学部心理学科の開設，また専修大学人間科学論集心理学篇の創刊，おめでとうございます。私が大学院博士後期課程を修了し，1年と数ヶ月が経ちました。文学部心理学科に入学してからの9年間生田の山を登り続けたものですから，登らなくなった当時はとても不思議な気持ちになったことを思い出します。2010年5月31日に開催されたホームカミングデーでは，久しぶりに生田の山を登り（バスを利用してしまいました），研究室にお邪魔しました。大きく変わった心理学研究室を目の当たりにし，とても驚いたのと同時にこの施設を利用して勉強・研究をすることができる学部生・院生の皆さんを大変羨ましく思いました。

さて，この原稿を書くに辺り困っていたところ，山上精次先生から「在学時のエピソードは満載だからそれを書いたら？」とのヒントを頂きました。そんなにエピソード満載ではありませんし，公にできそうな事はそれほどありませんが，大学・大学院時代を少し振り返ってみたいと思います。

専修大学に入学したきっかけは，当時地方会場で入学試験を受けていた教室の試験監督である山上先生の「4月にお会いしたら，珈琲でも差し上げますよ」という一言でした。まさか山上先生もその後そんな冗談を真に受けた学生と，9年近く珈琲を一緒に飲むことになるとは思ってもよらなかったのではないのでしょうか。口は災い(?)の元とはこのことです。

大学に入学してからは，基礎実験などに追われつつも充実した学生生活でした。基礎実験は小グループに分かれて実験を行いますから，一緒のグループになった人たちは特に親しくなり，今でも付き合いが続いています。また基礎実験1は，自分が授業を受けたと同時に，TAとして3年間実験種目を担当させて頂いた科目でもあるため，学生としての思い出と，教える側としての思い出がある，とても印象深い授業です。ホームカミングデー当日には，初めてTAとして授業に関わった学年の人達が院生としてお手伝いしている姿を見て，月日の流れを感じました。

大学入学後から漠然と大学院に進学したいと考えておりましたが，3年生になり生理心理学ゼミに所属してからは実験がとても面白く，益々その思いを強くしました。大学院に進学してからは，毎日実験をしたり論文を読んだり学会に参加したり，と忙しくも学部生活とはまた遣う種の充実した毎日を送ることができました。大学院前期・後期課程だけでも5年間ありましたが，あっという間の5年間でした。初めての学会参加，初めての学会発表，初めて自分の研究論文が雑誌に受理された日，研究室の移動，博士論文の提出と口頭試問，そして学位授与。博士号はゴールではなく，ようやくスタート地点に立ったところなのだと思いますが，両親を始め先生方や多くの方々に祝福して頂き，本当にたくさんの人たちに支えられながらたどり着いたのだと改めて感じます。先生方には，公私ともども本当にお世話になったこと，深く感謝しております。

専修大学の心理学科は、少人数制や実習科目が多いということもあり、学生と先生方の距離がとても近い学科です。同時に、院生から学部生まで、縦のつながりも非常に強い学科だと思います。在学当時、縦と横のつながりに何度も助けられました。ぜひこの体制を続けて頂きたいと思います。また学生の皆さんは、新しく完成した素晴らしい施設と素敵な先生方を大いに活用して、充実した大学生活をお過ごし下さい。

専修大学人間科学部心理学科のますますのご発展を心より祈念致します。